

地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について — 甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム —

目次

1. 研究の概要	1
2. 研究活動報告	3
3. 研究成果の公表	5
4. 合同会社飯田甲斐絹堂および甲斐絹プロジェクト学生グループ活動報告 ...	7
5. 甲斐絹座の活動	21
6. 甲斐絹プロジェクト研究活動の評価	26

1. 研究の概要

(1) 研究テーマ

「地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について
ー甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発ー」

(2) 研究者

代表者

齊藤秀子 (人間福祉学部)

共同研究者

波木井昇 (山梨県立大学理事)

黒羽雅子 (国際政策学部)

安達義通 (国際政策学部)

箕浦一哉 (国際政策学部)

古屋祥子 (人間福祉学部)

五味武彦 (山梨県立大学理事)

志村結美 (山梨大学教育人間科学部)

一瀬富房 (山梨県産業労働部産業支援課)

伴野正明 (山梨県峡南農務事務所)

前田市郎 (株式会社前田源商店・甲斐絹座)

山崎泰洋 (山崎織物株式会社・甲斐絹座)

槇田則夫 (株式会社槇田商店・甲斐絹座)

田辺丈人 (有限会社田辺織物・甲斐絹座)

一瀬美教 (株式会社大直)

雨宮陽子 (株式会社山梨中央銀行営業統括部)

内田雄士 (株式会社山梨中央銀行営業統括部)

黒羽ゼミ甲斐絹プロジェクト学生グループ 10 名

(3) 研究の背景と目的

山梨県内の「甲斐絹」に関わる織物企業や商店では、「甲斐絹」を日本に、世界に広めその良さを伝えるための、地域資源、伝統文化を活かしたビジネス展開を進めている。本研究は、このビジネス展開支援のため、「甲斐絹」の地域文化としての伝承のための教育プログラムを開発するとともに、地域あるいは国内でのビジネス展開、発信方法を検討し、「甲斐絹」すなわち地域資源を活かしたビジネス展開の可能性を探ることを目的とする。

平成 21 年度（センター共同研究）においては、「甲斐絹」を題材とした中学校での研究授業、山梨県富士吉田市、工業技術センターでの「甲斐絹」保存、また富士吉田市歴史民俗博物館を見学し、知見を深めた。これらの活動について山梨県立大学地域研究交流セン

ター2009 年度研究報告書としてまとめ、発刊した。平成 22 年度（プロジェクト研究）においては、「甲斐絹」を題材とした高等学校での研究授業、山梨県立大学の演習における「甲斐絹」のビジネス展開についての検討と実践、「合同会社飯田甲斐絹堂」の設立、研究会における他業種とのコラボレーションについて検討し、これらの活動について、山梨県立大学地域研究交流センター2010 年度研究報告書としてまとめ、発刊した。

さらに平成 23、24 年度においては、上記の活動を継続するとともに、「合同会社飯田甲斐絹堂」がミニノート、および「甲斐絹名刺入」を企画、製作、販売し、これらの活動について 2011、2012 年度研究報告書としてまとめ、発刊した。

上記の背景をふまえ、平成 25 年度においても、「甲斐絹」の地域文化としての伝承のための教育プログラムを開発するとともに、地域あるいは国内でのビジネス展開、発信方法を検討し、「甲斐絹」すなわち地域資源を活かしたビジネス展開の可能性を探ることを目的として研究を進める。

（4）研究の方法と手順

平成 25 年度研究活動は次のように進めたいと考えている。

1) 研究会の開催

平成25年12月または平成26年1月を予定している。

2) 学内会社組織「合同会社飯田甲斐絹堂」の活動として、メモ帳、名刺入れの製作・販売について検討、実践する。また、様々な場面で「甲斐絹」知名度の向上活動を実践する。

3) 研究成果の公表

これまでの研究内容について日本繊維製品消費科学会学会発表および学会誌への投稿、日本家庭科教育学会誌への投稿を行う。

4) 報告書の発刊

本研究活動について山梨県立大学地域研究交流センター2013年度研究報告書として発刊する。

（5）研究の地域貢献

本研究は地域の要望に答え、「甲斐絹」織物企業、商店、山梨県産業労働部産業支援課、山梨県富士工業技術センター、山梨県工業技術センター、山梨県立大学、山梨大学、山梨中央銀行による研究であり、本県における地域資源に関わる産・官・学・金の構成による研究体制が整っている。本研究により、地域文化を児童・生徒に伝えるための教育プログラムが開発され、山梨県の教育の充実に寄与することができる。また、伝統文化である「甲斐絹」のビジネス展開のあり方が検討され、これらの知見は今後の「甲斐絹」ビジネス展開を、ひいては地域資源によるビジネス展開をバックアップするものとなる。

（6）研究経費

山梨県立大学地域研究交流センタープロジェクト研究の経費による。

2. 研究活動報告

(1) 学会発表

学 会 名 : 一般社団法人 繊維製品消費科学会 (2013 年度年次大会)
日 時 : 平成 25 年 6 月 22 日 (土)
場 所 : 椋山女学園大学 (名古屋市千種区)
題 目 : 地場産業の伝承と発信のためのプログラム開発-山梨県甲斐絹を事例として-
発 表 者 : 斉藤秀子
共同研究者: 黒羽雅子、波木井昇、安達義通、箕浦一哉 (山梨県立大学)
志村結美 (山梨大学大学院)

(2) 研究会

- 日時: 1 月 27 日 (月) 18:00~19:00
場所: 山梨県立大学 飯田キャンパス A 館 6 階 地域研究交流センター研修室
内容:
- ① 日本繊維製品消費科学会での研究発表報告
 - ・平成 25 年 6 月 22 日、名古屋市にある椋山女学園大学で開催された一般社団法人日本繊維製品消費科学会 2013 年次大会において、「地場産業の伝承と発信のためのプログラム開発-山梨県甲斐絹を事例として-」という題目で研究発表を行った。
 - ② 飯田甲斐絹堂及び甲斐絹プロジェクト学生グループ活動報告
 - ・飯田甲斐絹堂ホームページ作成、新製品開発検討 (カードケース)、飯田甲斐絹堂英文パンフレット作成、国際キルトフェスティバルでの展示品作成並びに英文アンケート作成、大学祭出展、朝日通りえびす講祭出展、県立美術館・セブンイレブン宛て製品取り扱い依頼、大学卒業記念名刺入れ発注準備など、活発な活動を行った。会議数は 21 回に達した。
 - ・甲斐絹プロジェクトが、県立大学地域研究交流センターにより平成 25 年度学生優秀地域プロジェクトに認定され、1 月 29 日に認定式があった。
 - ③ 飯田甲斐絹堂学生等対象の研修会について
 - ・平成 26 年 2 月 14 日 (金)、県立大学 飯田キャンパス A506 教室で、飯田甲斐絹堂の学生等を対象として研修会を開催し、富士工業技術センター繊維部 技術支援課の五十嵐哲也氏が講演予定である。
 - ④ 平成 25 年度報告書について
 - ・報告書の構成、執筆分担等について打ち合せを行った。
 - ⑤ センター研究報告会について
 - ・平成 26 年 3 月 25 日 (火) 13:30~ 県立大学 飯田キャンパスにおいて、県立大学地域研究交流センター主催の研究報告会の中で、平成 25 年度甲斐絹プロジェクトの活動について報告した (報告: 甲斐絹プロジェクト学生グループ)。
 - ⑥ 甲斐絹プロジェクト研究の終了について
 - ・県立大学地域研究交流センターの研究予算を使って平成 21 年度にスタートした本研究プロジェクトは、相応の目的を達成し、今年度 (平成 25 年度) で 5 年間の経過するので、終了することになった。
 - ⑦ 甲斐絹座報告

- ・ニューヨーク近代美術館（MoMA）の販売コーナーで甲斐絹座製品の取り扱いが始まった。今後、100 万部発行されている同美術館のカタログに掲載される予定である。
 - ・1月上旬、伊勢丹と高島屋で風呂敷の展示会を行い、好評であった。
 - ・日本財団学生ボランティアセンターが発行している就職支援誌「EMAC」（季刊）で、甲斐絹座・前田市郎氏へのインタビュー記事が掲載された。
- ⑧文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」について
- ・県立大学が平成 25 年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」実施大学として選定され、今後 5 年間、同省からの助成を得て、関係自治体と連携しながら、地域課題の解決に繋がる活動を行っていくことになった。当面の活動のひとつとして、地場産業のブランド化・国際化に資するプロジェクトが開始されたところであり、そのなかで甲斐絹やその他の地場産業について取り組んでいく予定である。

（3）講演会

以下の講演会を企画したが、大雪のため実施不可となった。

日時：平成26年2月14日（金）午後1:30～3:00

場所：山梨県立大学 飯田キャンパス A506教室

講師：山梨県富士工業技術センター繊維部 技術支援課 五十嵐哲也氏

演題：山梨産地と甲斐絹

対象：飯田甲斐絹堂の学生、及び企業関係者・甲斐絹に関心のある一般県民等

3. 研究成果の公表

本研究プロジェクトの研究成果について、次のように公表した。

(1) 公表の概要

学 会 名：一般社団法人 繊維製品消費科学会 2013 年度年次大会

日 時：2013 年 6 月 22 日（土）、23 日（日）

場 所：杉山女学園大学（名古屋市千種区星が丘元町 17-3）

題 目：地場産業の伝承と発信のためのプログラム開発

—山梨県甲斐絹を事例として—

発 表 者：斉藤秀子

共同研究者：黒羽雅子、波木井昇、安達義通、箕浦一哉（山梨県立大学）

志村結美（山梨大学大学院）

(2) 要旨

1. 研究の目的

山梨県の伝統文化の一つである、「甲斐絹」は、第二次世界大戦までは、山梨県の地域産業として隆盛を極めたことが知られている。戦後、その生産技術が日本でも有数の細糸・高密度の先染め染色産地として継承され、かさの布地、ネクタイ地等として日本のみならず世界で販売されているが、いわゆる「甲斐絹」としての商品の流通は極めて少ない現状にある。このため、県内の「甲斐絹」に関わる織物企業や商店では、再度、「甲斐絹」を日本に、世界に広め、その良さを伝えたい、すなわち地域資源、伝統文化を活かしたビジネス展開への要望がある。

2006 年の教育基本法の改正を受け、2008 年 3 月の学習指導要領告示では、国際社会で活躍する日本人の育成のため、我が国の郷土の伝統や文化を受け止め、それを継承、発展させるための伝統や文化に関する教育の充実を図ることが求められている。このような背景のもと、本研究では、まず、児童、生徒を対象とした「甲斐絹」を題材とした教育プログラムの開発を試みた。

また、山梨県の伝統文化の内でも、「印伝」「和紙」など、生活用品として、お土産品として流通している製品も多い。県内の伝統文化のブランド価値の創造のあり方、購入者である消費者行動等の側面から、地場産業としての「甲斐絹」の今後のビジネス展開のあり方を模索、検討する必要がある。また、生活の現状をみると、低成長時代にあっても、消費者は生活における「癒し」、あるいは「楽しみ」を求めており、特に「食」、あるいは身近な室内空間「インテリア」への関心も高く、若年層の雑貨に対する需要は目を見張るものがある。このような市場の動向を背景に、「甲斐絹」を用いた商品開発のあり方、「甲斐絹」の国内外への発信の方法を検討する。

本研究は、教育プログラムの開発により「甲斐絹」の地域文化としての伝承を、および、地域あるいはビジネス展開、商品開発、国内外への発信方法を検討することにより、「甲斐絹」を題材とする地場産業の伝承と発信のためのプログラム開発を目的とする。本報告では、主に、甲斐絹の発信についての成果を報告する。

2. 研究方法

本研究は山梨県立大学、山梨大学大学院、山梨県商工労働部産業支援課、山梨県富士工業技術センター、山梨県工業技術センター、山梨県農政部花き水産課、山梨県峡南農務事務所、

(株) 甲斐絹座、(株) 大直、山梨中央銀行、山梨県立大学学生による、産官学金の取り組みとして実施された。

2010 年には、山梨県立大学 97 名、都留文科大学 42 名、富士川町 55 名、山梨県立韮崎高校 10 名を対象に、「甲斐絹」に関する講演を実施、アンケート調査を行った。2011 年には同様に甲府城西高校 217 名、および山梨県立大学 91 名、都留文科大学 69 名を対象に、2012 年には山梨県立大学 86 名、山梨県立桂高校・都留文科大学合計 111 名、甲府城西高校 266 名を対象にアンケート調査を行なった。さらに、これらのデータを集計、分析した。

2009 年から上記取り組みの組織としての研究会で「甲斐絹」製品の開発を始め、2010 年からは、山梨県立大学のゼミ活動として、「甲斐絹」製品の開発を行った。2011 年には山梨県立大学内に合同会社飯田甲斐絹堂を設立した。

3. 研究結果および考察

アンケート調査の結果、「甲斐絹」に関わる講義や授業は、山梨県あるいは地域の伝統文化への興味・関心の喚起について効果があることが示唆された。また、学生のゼミ活動により、甲斐絹柄のメモノートが製作、販売されるとともに、合同会社飯田甲斐絹堂により「甲斐絹名刺入れ」が企画、販売された。

本研究は、山梨県立大学地域研究交流センタープロジェクト研究、研究費により行われた。

(3) 発表内容

- ・ 共同研究者一覧
- ・ 「甲斐絹」とは
 - 富士吉田織物産地の歴史
 - 郡内産地織物の現在
 - 甲斐絹の保存（富士吉田市歴史民族博物館、山梨県富士技術工業センター）
 - 株式会社甲斐絹座（甲斐絹の復刻）
 - 甲斐絹の特徴
- ・ 研究の目的
- ・ 研究会の開催
- ・ 「甲斐絹」の伝承
 - 「甲斐絹」を題材とする研究授業
 - 山梨大学教育人間科学部附属中学校、県立富士吉田河口湖高校、県立韮崎高校
- ・ 「甲斐絹」の伝承と発信
 - 「甲斐絹」に関する講演、アンケート調査
 - 山梨県立大学、都留文科大学、県立城西高校等
- ・ 「甲斐絹」の発信
 - 山梨県立大学でのゼミ活動、文化祭、甲斐絹柄メモ帳の作成、販売等
- ・ 学内会社組織「合同会社飯田甲斐絹堂」2011 年 3 月 30 日
 - 事業内容、パンフレット等
- ・ 研究活動の評価
 - NHK 等メディア報道記録 5 件
 - 新聞報道記録 10 件
- ・ 結論
 - 中学校、高等学校での甲斐絹を扱う授業、アンケート調査、ゼミ活動による商品開発、大学内会社の設立とビジネス展開は、地場産業の伝承と発信のために活用できるプログラムと考えられる。

4. 合同会社飯田甲斐絹堂および甲斐絹プロジェクト学生グループ活動報告

金山フォーレスト里行
(総合政策学科3年)

はじめに

2013年は飯田甲斐絹堂にとって大きな転機となった。まず、私をはじめとした総勢4名の新入社員が加わり、組織規模が拡大した。活動面においても、メディアへの積極的な露出による甲斐絹の宣伝や、アメリカで行われた「国際キルトフェスティバル」へのブース出展、オンラインショッピングサイトへの出品による国際的販売活動の展開など、甲斐絹を広く世界へと発信することが叶った。また、昨年度に引き続き、本学後援会より卒業記念品として「甲斐絹名刺入」が採用され、甲斐絹が卒業生と共に全国に「伝承」される機会を得ることができた。

2014年もこの成功を引き継ぎ、更に活動を活発化させてゆきたいと考えている。

(1) 「甲斐絹をたずねて」外国語訳版の完成

2013年度前期でもっとも大きな活動成果は、甲斐絹名刺入に付属する商品説明である、「甲斐絹をたずねて」の英語訳版、および中国語訳版が完成したことである。この外国語訳版の完成は、商品の海外販路開拓を容易にしたことに加えて、甲斐絹の性質や歴史を広く世界に知らせることに寄与することが期待される。

(2) 「かいてらす」への営業活動



写真：「かいてらす」
での甲斐絹名刺入売
場の様子

2013年6月7日と同月20日に名刺入の販売を委託している、かいてらす（一般社団法人山梨県地場産業センター）を訪問、商品の展示方法や展示場所、包装の変更について担当者と意見交換を行った。

（３）雨宮氏との懇談会

新入社員の加入、「甲斐絹をたずねて」の外国語訳完成などの甲斐絹堂の活動進捗に併せて、甲斐絹堂への協力で御尽力を頂いている山梨中央銀行の雨宮陽子氏を本学に招待、懇親会およびインタビューを行った。このインタビューは、「合同会社飯田甲斐絹堂ヒストリー・ファイル」に掲載される予定である。

写真：雨宮氏へのインタビューの様子



（４）郡内地域訪問



写真：富士工業技術センターで織機の運転を見学

新入社員が増えたことにより、甲斐絹の基礎的な知識を共有する必要性が増したので、7月17日に富士工業技術センター、甲斐絹座ショールームを訪問した。

富士工業技術センターでは、甲斐絹を織るための織機の見学に加え、幕末や明治の古い甲斐絹の生地を実際に見て、その優れた技術や芸術性を実感する貴重な体験をした。

写真 2：富士工業技術センターで甲斐絹の現物標本を見学



(5)「国際キルトフェスティバル」への出展とその準備

本学 COC 事業への参加の一環として、昨年 10 月 31 日から 11 月 3 日まで米国はテキサス州ヒューストン市で開催された「国際キルトフェスティバル」へ甲斐絹ブースを出展することとなった。飯田甲斐絹堂は 9 月から出展ブースの展示レイアウトの検討を開始、その様子は 2013 年 10 月 28 日付けの「山梨日日新聞」22 面に掲載された。

写真：展示物準備の様子



写真：展示物レイアウト決定案と甲斐絹堂メンバー一同



（６）学園祭での展示

2013年11月9日から10日に掛けての二日間、本学A館5階の教室に甲斐絹堂ショールームを設け、来場者へ甲斐絹や当社の事業内容に関する説明を行った。宣伝が主目的であったものの、名刺入の売上にも繋がったことから、意義ある活動となった。

写真：甲斐絹堂ショールームの様子



(7)「甲府朝日町通り商店街えびす講祭り」への出店

2013年11月23日に行われたえびす講祭りに出展した。活動内容は、学園祭と同様で、宣伝活動が主であった。客単価の低い催し物であったので、名刺入の販売実績は上がらなかったものの、甲斐絹柄ミニノートの売上があったことは成果であった。また、10月28日の山梨日日新聞に掲載された記事のことを話す来店客もあり、メディアを通じた宣伝活動が一定の成果をあげていることを実感した。

写真：えびす講祭りにおける出店状況



(8)「セブン・イレブン甲府飯田通り店」への商品展開

2013年12月に本学近隣のセブン・イレブン甲府飯田アルプス通り店による名刺入委託販売が正式に決定した。現在販売什器の作成やキャッチコピー考案などの活動を行っている段階であり、一日も早い納品が待たれる。

別表：2013 年度飯田甲斐絹堂および甲斐絹プロジェクト学生グループ活動一覧

合同会社飯田甲斐絹堂学生グループ

日時	テーマ	摘要
2013 年 5 月 15 日	会議：販路拡大、新製品について	
2013 年 5 月 17 日	会議：名刺入販売準備作業 甲斐絹堂ホームページ作成の作業 決算の計画を決定 新製品開発（カードケース） 販売先との連絡	
2013 年 5 月 20 日	行事：甲斐絹堂のメンバーで懇親会	
2013 年 5 月 31 日	会議：パンフレットの英訳の作業の計画 2012 年度決算と納税についての報告 4 月 5 月期決算と棚卸について 新製品設計図の完成に向けて 名刺入商品説明英訳について	
2013 年 6 月 7 日	会議：これまでの活動の報告 生協訪問 かいてらす訪問について 山梨中央銀行訪問に関して 郡内地域訪問に関して	
2013 年 6 月 7 日	活動：かいてらす訪問 名刺入包装の変更	
2013 年 6 月 20 日	活動：かいてらすに訪問 納品やディスプレイに関して	
2013 年 6 月 21 日	会議：店頭ディスプレイ用の P O P の作成 店頭用フォトフレームの購入に関して ヒストリーファイル作成に関して	
2013 年 6 月 28 日	会議：ヒストリーファイル作成に関して オープンキャンパス、学祭での活動に関して	
2013 年 7 月 5 日	新入社員加入：金子裕紀、薛冰	
2013 年 7 月 8 日	活動：山梨中央銀行の雨宮陽子氏の甲斐絹堂訪問 雨宮氏への新入社員の紹介、インタビュー	
2013 年 7 月 10 日	会議：学園祭出店に関して	
2013 年 7 月 12 日	会議：ヒストリーファイル作成	

	会社ホームページ作成 説明書英語版に関して	
2013 年 7 月 17 日	活動：富士工業技術センター、及び甲斐絹座ショールームを訪問	
2013 年 7 月 19 日	会議：生協訪問についての報告 (英語版・中国版名刺入用パンフ完成納品*1、 オープンキャンパス時のディスプレイについて)	
2013 年 7 月 22 日	会議：オープンキャンパス時の手伝い セブン-イレブンの納品に関して 新商品であるカードケースと箱に関して	
2013 年 7 月 27 日	活動：本学オープンキャンパスにおいて甲斐絹堂と その活動について説明	
2013 年 8 月 9 日	会議：夏季休業中の活動についての確認 ヒストリーファイルの総括	
2013 年 8 月 16 日	活動：甲斐絹堂理念を作成	
2013 年 9 月 1 日	会議：国際キルトフェスティバルに関して	COC による 活動
2013 年 9 月 17 日	会議：国際キルトフェスティバルの準備 (ホームセンターで下調べ)	COC による 活動
2013 年 9 月 18 日	活動：国際キルトフェスティバル準備 (筒や説明札の買い出し)	COC による 活動
2013 年 9 月 22 日	会議：ヒューストン展示物の配置について 必要な展示物、材料の選定	COC による 活動
2013 年 9 月 26 日	会議：ヒューストン展示に向けての準備 チラシの発注*2	COC による 活動
2013 年 10 月 4 日	活動：JANOME 懇談会出席報告を受ける	
2013 年 10 月 28 日	活動：楽天グローバルマーケットの出品の紹介文の 作成	山梨日日新聞 2013 年 10 月 28 日号の 22 面に関連記事 掲載
2013 年 11 月 1 日	会議：学園祭出展の準備	
2013 年 11 月 9 日～ 10 日	活動：山梨県立大学学園祭出展	

2013 年 11 月 15 日	会議：えびす講まつり出展の準備	
2013 年 11 月 22 日	会議：えびす講まつり出展の準備 セブン-イレブン出品の検討	
2013 年 11 月 23 日	活動：えびす講まつり出展	
2013 年 11 月 29 日	会議：美術館出品の検討 セブン-イレブン出品の検討	
2013 年 12 月 13 日	会議：セブン-イレブンへの販売委託交渉準備 県立美術館への販売委託計画の検討 新商品デザインの検討	
2013 年 12 月 16 日	活動：セブン-イレブン甲府飯田店への営業 セブン-イレブンへの納品が正式に決定	
2013 年 12 月 20 日	会議：セブン-イレブン販売用ポップのデザイン検討 新入生勧誘用ポスターデザイン検討 新商品デザインの検討	
2014 年 1 月 8 日	会議：卒業記念名刺入の見積及び営業に関して セブン-イレブン出品計画詳細検討 県立美術館への営業検討 新商品の仕様に関して	
2014 年 1 月 10 日	会議：卒業記念名刺入見積書作成、営業に関して 県立美術館営業の日程に関して 新商品試作の生地を検討	
2014 年 1 月 15 日	会議：新商品カラーバリエーションに関して	
2014 年 1 月 24 日	会議：一年間の活動まとめ	
2014 年 1 月 27 日	会議：甲斐絹プロジェクト会議に出席、活動報告を行う	

*1、*2 の作成したパンフレットは本章末に掲載しました。

(学生指導： 国際政策学部総合政策学科 黒羽雅子)

※1 甲斐絹名刺入用パンフレット（A4 縦 1/3 サイズの表裏三つ折り：名刺サイズ）

中国語版

甲斐絹商务名片夹 本公司的商务名片夹均由山梨县内的日本传统纺织品制作家精心缝制。百分百纯手工制作而成。每个甲斐絹商务名片夹均由以下两种甲斐絹组合而成。 1 条纹状甲斐絹（表面） 纵向条纹和横向条纹均由一色组成 2 多色状甲斐絹（内面） 纵向和横向由不同彩色细绢所组成。并且根据观看角度的不同可以呈现出多种色调变化。	甲斐絹的特征 本公司所使用的甲斐絹购自“股份有限公司甲斐絹座”。其原料，均取自山梨县内所生产的蚕丝，并于郡内地区加工而成。甲斐絹拥有独特的光泽以及爽滑的触感，高密度细丝的特殊纺织技法更赋予其丰富的弹力。	寻访甲斐絹 
---	---	--

英語版

寻访甲斐絹 甲斐絹是山梨郡内地区（富士北麓，东部地域）代代相传的传统纺织技术。 从江戸时代开始，甲斐絹便闻名于全日本。而今，跨越多个时代后的甲斐絹更是已完全确立了其在山梨传统纺织品中所不可替代的地位。	甲斐絹的起源可以追溯到距今四百年前对外贸易中所诞生的“先染技术”。在江戸时代中期的元禄时代，著名的“浮世草子”的作家井原西鹤，“人形浄瑠璃”的工艺专家近松门左卫门等人各样的作品中，甲斐絹就分别已“郡内織”的名称先后登场。作为上流社会的象征，甲斐絹风靡一时。而山梨作为优质纺织品的产地也为人所熟知。而后伴随着时代的变迁，甲斐絹也演化出各种不同的形态。昭和初期，甲斐絹作为高级纺织品的原料，其发展到达了顶峰。	可是，伴随着战后时代统治（1945～1952）的影响以及和服文化的衰退，甲斐絹的生产陷入了中断。而后更因化学纺织品的出现，甲斐絹不但没能实现其复兴，反而渐渐淡出了人们的视野。 “合同有限责任公司饭田甲斐絹座”的所有绢织品都使用“股份有限公司甲斐絹座”所生产的甲斐絹。“股份有限公司甲斐絹座”是由以复兴有着光荣郡内地区传统的甲斐絹为己任的纺织达人所组建的公司。
---	---	---

About this Product: A Business Card Case This product was hand-made carefully by a craftsman. Two kinds of <i>Kaiki</i> textiles are used. 1. Outer material: Several colors of threads are used as warp threads, and they are arranged so that they form stripes. Wool threads on the other hand are only one color. 2. Linner: Because the warp and wool threads are different colors, the color of the lining appears to change depending on the angle from which it is viewed.	The characteristics of <i>Kaiki</i> All of the textiles used for our products are <i>Kaiki</i> woven in the Gunnai region in the traditional manner by using silk cocoons produced in Yamanashi. <i>Kaiki</i>'s unique gloss and smooth texture are derived from the high-density plain weave of thin threads which are made by yam-dyeing, degumming, and soft-twist techniques.	A <i>Kaiki</i> Story 
--	---	--

About <i>Kaiki</i> There are traditional silk textiles called '<i>Kaiki</i>' in the <i>Gunnai</i> region of Yamanashi Prefecture, Japan. Products made of <i>Kaiki</i> became popular from the Edo period (1603-1868), and have developed a reputation as a representative textile of Yamanashi. The origin of <i>Kaiki</i> can be traced back about 400 years. It began with the arrival of yam-dyed silk textiles brought by foreign merchants.	By the time of the Genroku era (1688-1704), <i>Kaiki</i> textile products appeared in many Ukiyoe art works and Ningyō-Jourū (traditional puppet shows) as <i>Gunnai-Jima</i> (Gunnai stripes). <i>Kaiki</i> was praised by upper-class people and Yamanashi came to be known as a producing center of high-quality silk textiles. Various <i>Kaiki</i> products were invented over the years, and thrived until the beginning of the Showa era (1926-1989) as high-quality liners for <i>haori</i> (short coats for Japanese traditional clothing).	<i>Kaiki</i> production died out by the early 1940s due to wartime regulations and production never resumed even after the Second World War because of the prevalence of chemical fibers. All the silk textiles used for products that we sell are produced by <i>Kaikiza, Corp.</i>, which is located north of Mt. Fuji. <i>Kaikiza</i> is a group of silk textile craftsmen whose objective is to revive the historical heritage of <i>Kaiki</i>.
---	---	---

*2 海外展示向けチラシ (A4 三つ折りサイズ)

Name Card Cases by Iida-Kaikido, LLC.
are available online!

Purple

Orange

This product was hand-made carefully by a craftsman. Two kinds of *Kaiki* textiles are used.

1. Outer material: Several colors of threads are used as warp threads, and they are arranged so that they form stripes. Woof threads on the other hand are only one color.
2. Liner: Because the warp and woof threads are different colors, the color of the lining appears to change depending on the angle from which it is viewed.

You can purchase them at Rakuten Global Market

<http://global.rakuten.com/en/store/maedagen/item/kk30200502/>
<http://global.rakuten.com/en/store/maedagen/item/kk30200501/>

About the company: Iida-Kaikido, LLC.

Our company, Iida-Kaikido, LLC., is located in Yamanashi Prefectural University and we sell products made of *Kaiki*, a traditional craft of Yamanashi.

The company was established by Professor Kurohane and her students in March of 2011 in order to provide students with practical business experience.

The primary mission of Iida-Kaikido, LLC., is to promote our traditional local craft, *Kaiki* to the world and let the people know the attractiveness of our hometown, Yamanashi.

It took one year for us to plan and develop our first product, name card cases, with the help of the local government, a local bank, and Kaikiza Corp. Ltd., a group of textile craftsmen. Name card cases are given as gifts from the parents' association of our university to the graduates on commencement day.

We are currently developing the new product and we are ready to tell the world about our business and products in English and Chinese. We will continue to do our best to accomplish our mission.

Contact Information:

Iida-Kaikido, LLC.
5-11-1 Iida, Kofu,
Yamanashi 400-0035
JAPAN

Phone/Fax: +81-55-224-5347
Email address: iidakaikidou@yahoo.co.jp
Website: <http://iidakaikido.web.fc2.com>

***Kaiki* is a name of Japanese traditional silk-fabric produced at the foot of Mt. Fuji.**

We are supported by the Center of Community Project of

incorporated municipal university

Yamanashi Prefectural University

Address: 5-11-1 Iida, Kofu, Yamanashi 400-0035 JAPAN
Tel. +81-55-224-5261 Fax +81-55-228-6819

ABOUT KAIKI

There are traditional silk textiles called '*Kaiki*' in the Gunnai region of Yamanashi Prefecture, Japan.

Products made of *Kaiki* became popular from the Edo period (1603-1868), and have developed a reputation as a representative textile of Yamanashi.

The origin of *Kaiki* can be traced back about 400 years. It began with the arrival of yarn-dyed silk textiles brought by foreign merchants. By the time of the Genroku era (1688-1704), *Kaiki* textile products appeared in many *Ukiyoe* art works and *Ningyou-Joururi* (traditional puppet shows) as *Gunnai-Jima* (Gunnai stripes). *Kaiki* was praised by upper-class people and Yamanashi came to be known as a producing center of high-quality silk textiles. Various *Kaiki* products were invented over the years, and thrived until the beginning of the Showa era (1926-1989) as high-quality liners for *haori* (short coats for Japanese traditional clothing).

Kaiki production died out due to wartime regulations in the early 20th century, and production never resumed even after the Second World War because of the prevalence of chemical fibers.

All the silk textiles used for products that we sell are produced by *Kaikiza, Corp. Ltd.*, which is located north of Mt. Fuji. *Kaikiza* is a group of silk textile craftsmen whose objective is to revive the historical heritage of *Kaiki*.
The characteristics of *Kaiki*

All of the textiles used for our products are *Kaiki* woven in the Gunnai region in the traditional manner by using silk cocoons produced in Yamanashi. *Kaiki*'s unique gloss and smooth texture are derived from the high-density plain weave of thin threads which are made by yarn-dyeing, degumming, and soft-twist techniques.

About Our Goods

Kaiki Silk Scarves by Kaikiza, Corp. Ltd.

Made in Japan

Muji-Kaiki, Iridescent colored silk cloths by Kaikiza, Corp. Ltd.

Made in Japan

You can purchase all the items above at Rakuten Global Market

<http://global.rakuten.com/en/store/maedagen/item/kk302003/>

Kaiki Silk Scarves are also available at MoMA STORE (in different designs)
http://www.momastore.org/museum/moma/Categor yDisplay_10451_10001_26690_11542_1_Y_Scarves

Contacts: Kaikiza, Corp. Ltd.
Address: 1503-4 Shimoyoshida, Fujiyosida,
Yamanashi, 403-0004 JAPAN
Phone/Fax: +81-555-23-2280
Email: info@kaikiza.com

【追加報告】

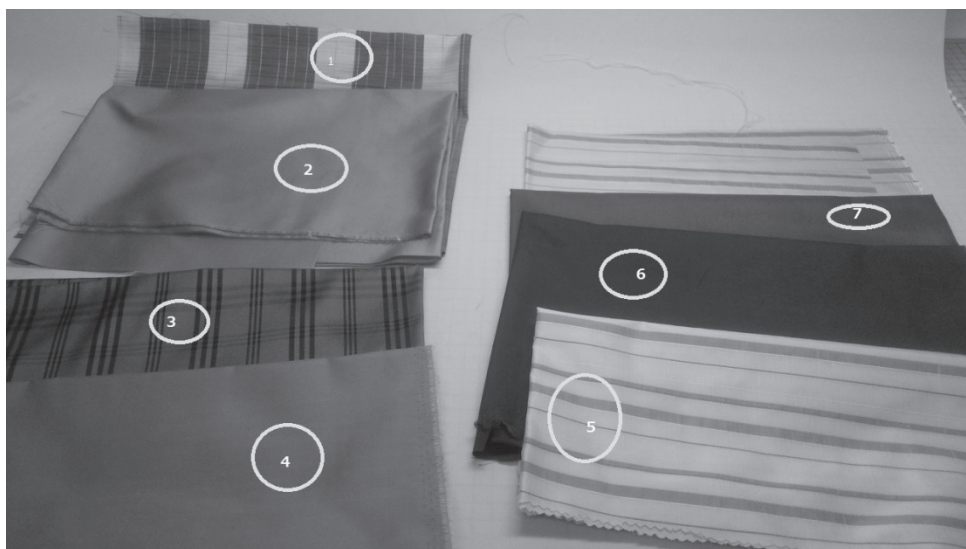
1. 2014 年 1 月 27 日(月) 本学地域研究交流センター「学生優秀地域プロジェクト」として「甲斐絹プロジェクト ―甲斐絹のビジネス化・国際展開への取り組み―」（実施主体：黒羽ゼミナールおよび合同会社飯田甲斐絹堂学生グループ）が認定を受けた。



2. 2014 年 2 月 28 日(金) カードケース試作品が完成し、納品を受けた。

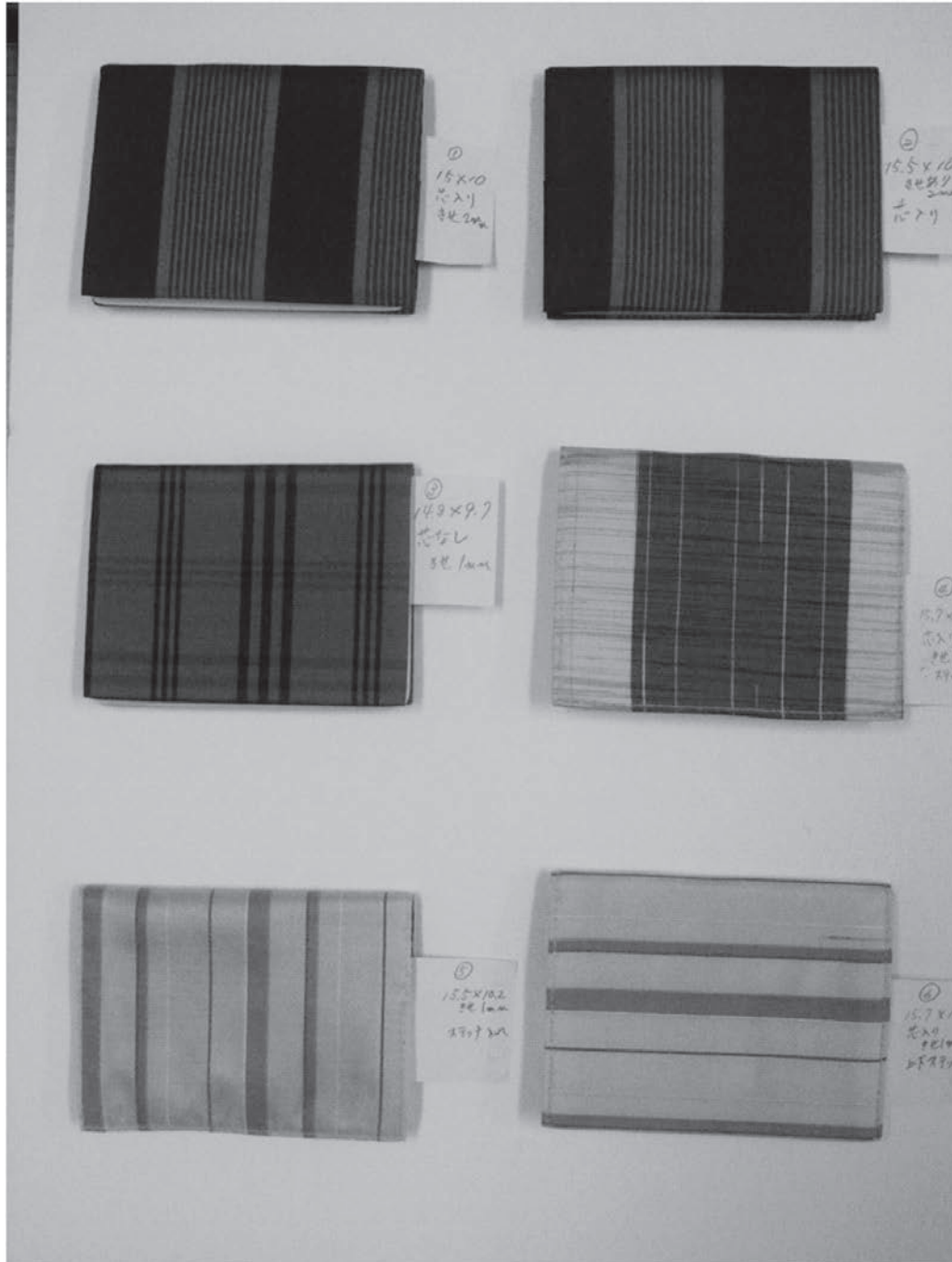
準備として、①カードケース用プラスチックケースの選定、②カードケース制作用設計図の作成、③生地組み合わせの選択、④制作者との打ち合わせを行った。

生地の組み合わせは写真①と②、③と④、⑤と⑥、⑦と⑤、および当社「甲斐絹名刺入」紫と同じ組み合わせで、都合 6 個完成した。

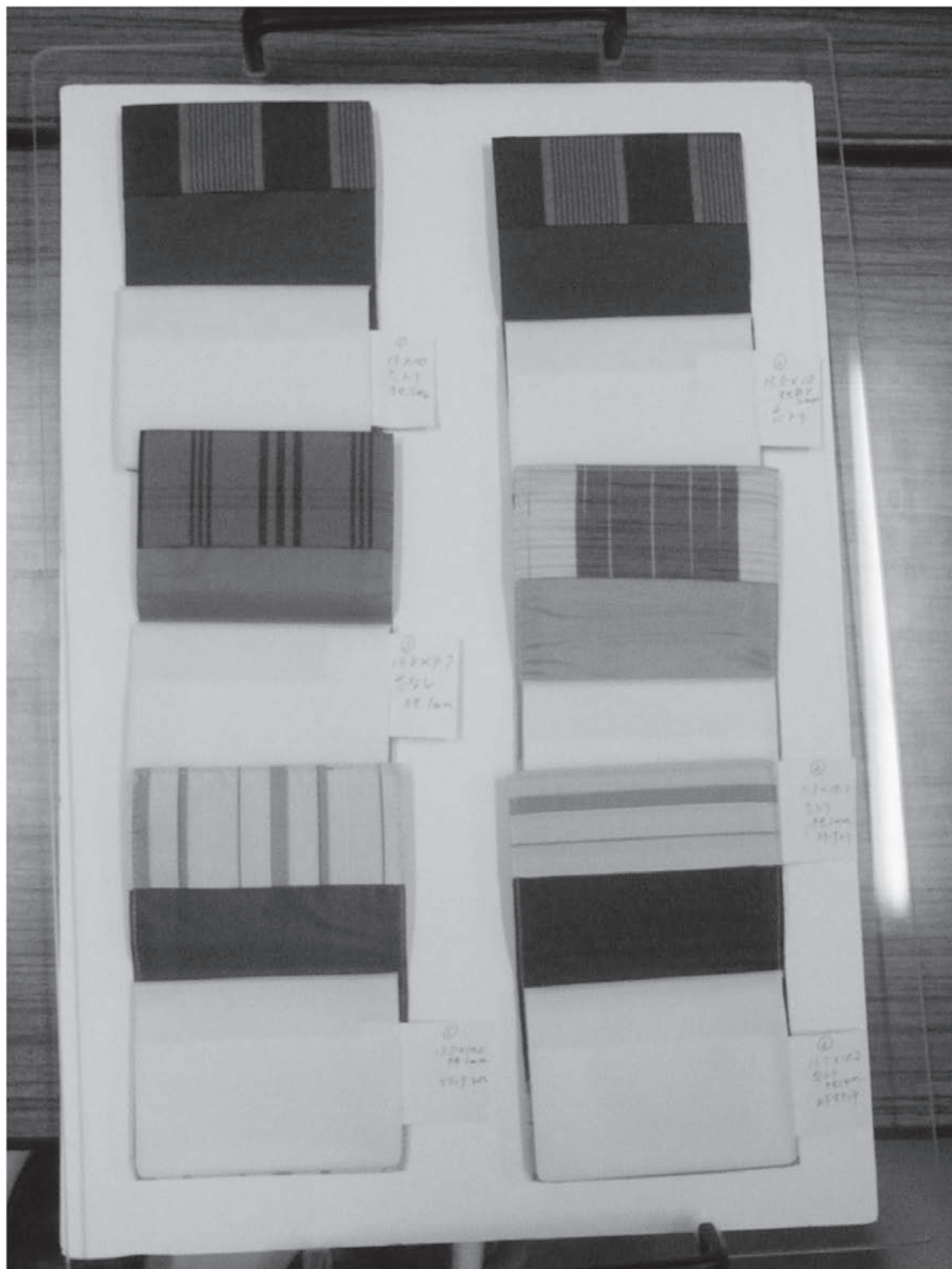


試作品の写真は下記のものである。添付の書付は、縫製方法および寸法に関するメモである。メモの内容は 6 個すべて異なっていて、商品化に向けてさらに、検討を重ねていく必要がある。

試作品の概観



試作品の内側



3. 2014年2月28日(金) 平成25年度卒業生への記念品(山梨県立大学後援会より)「甲斐絹名刺入」紫145個、橙145個 合計290個を納品した。

納品した商品には、甲斐絹に関する説明書である①「甲斐絹をたずねて」および②裏面に数野寛氏(甲府市在住)作の和歌(山梨にて学びし証 甲斐絹なる名刺入れ持ち巣立つ若人)が印刷された名刺大の「2013年度卒業記念」を示すカード他が添付されている。

包装および添付のパンフ・カード類は、学生による手作りである。



5. 甲斐絹座の活動

(1) 海外展示会への出展と海外販売

当社は、平成22年度地域中小企業海外販路開拓支援事業（経済産業省）の「甲斐絹の伝統を受継ぐ織物製品の海外展開支援事業」により2011年1月20日～25日までフランスのパリで行われた「メゾン・エ・オブジェ」展に出展したのを皮切りに、2012年8月に同展に新柄のストールを出展したところニューヨークのMoMA（ニューヨーク近代美術館）のデザインストアのバイヤーの目にとまり2012年の10月に東京で商談を行った。



ここで開発した新製品のストールは今までの玉虫無地シリーズから縞格子や緋などをを使った柄のバリエーションを増やし、サイズも大きいサイズにしてストールとしての完成度を上げた。

その結果、2013年9月より販売予定で2柄が採用された。

この製品は純国産絹マークの使用許諾を得ているため純国産絹マークを付けるのと同時に、英訳したマーク入りの葉作成し添付した。



この葉は単に英訳しただけで無く、最後に「**This mark is recorded product history and registered by the Dainippon Silk Foundation**」と明記されており、海外の消費者がこの製品を購入した際に、「日本製の生糸を使用した製品で、大日本蚕糸会に登録されている」ということがはっきりとわかる内容になっている。

MoMA デザインストアについては、2014年の春夏物のオーダーも入り、2014年の秋冬物も継続して商談中である。



やはり、甲斐絹の持つ独特の柔らかさ・軽さは勿論のこと、その持つ歴史的・技術的背景に裏付けられた製品であるということと、原材料であるシルクの素性の確かさも採用の要因であると推測される。

(2) 純国産宝絹展へ出展



2014年1月2日～7日まで、伊勢丹新宿店において、蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会主催の「純国産＜宝絹＞展」が開催され、甲斐絹グループとして参加した。



「1%が織りなす美」のキャッチコピーの元総合ディレクターをファッションディレクターの山口壮大氏に依頼し「純国産絹使用若手クリエイターによるコラボレーション作品展や、生きた蚕の展示、座繰りや地機織り、染色組紐など充実した様々な実演コーナーなど、期間中人が途切れることの無い人気の内容であった。

山口氏による「純国産宝絹すごろく」も養蚕から製品までの流れをわかりやすく表し好評であった。



また、同時期に1階のステージでは同じく山口壮大氏ディレクションにて「日本の染と織」IKESHOKU 展が開催され、日本の伝統技法を受け継ぐ若手職人が、新たな和の世界を生み出した。

当社も甲斐絹の裏地作りを得意としてきた歴史を「甲斐絹の”うらづかい”」として山口氏がディレクションしたスカーフ・袱紗・風呂敷を開発した。

(3) EMAC (学生記者によるインタビュー集) に掲載



MoMA デザインストアに製品が採用されたことが、地元の新聞等に掲載されたりしたことで、日本財団学生ボランティアセンター (GAKUVO) の学生記者によるインタビュー集の

創刊2号に当社及び私の記事を掲載して頂いた。テーマは「都市を捨てよう」で、地方で頑張っているものづくりをしている方や、情報発信をしているの方々によるインタビューで、当社が富士東部北麓地域の同業者4社の協同出資の会社で、純国産絹で甲斐絹を復刻し海外にも通用する製品を作ったことが高く評価され、取材を受けるに至った。

やはり、純国産生糸で作ったスカーフは甲斐絹独特の光沢感や風合い感が取材スタッフの方々にも絶賛され、下記のような素晴らしい写真が純国産絹マークと共に記事の中に納められた。



この取材がきっかけで、日本財団学生ボランティアセンター（GAKUVO）・センター長の西尾雄志氏（早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター客員准教授）の授業「ワークキャンプ論」にゲストスピーカーとして呼ばれ、地域や甲斐絹のことについて学生に話す機会を与えて頂いた。



授業内容はGAKUVOのインターンの学生主体で行われ、3～4人のグループを作り、最初に何も説明しない状態で国産絹のスカーフに触れてもらい、その印象を一人ずつ話してから、甲斐絹が作られてきた地域や織物について説明した。

非常に興味深かったのは、最初に製品に触れた印象がほとんど全員同じ意見（柔らかい・軽い・優しい）だったことである。

当日私がゲストスピーカーであるということを学生は知らなかったのも、先入観無く素材に触れたと思う。やはり本物のシルクの風合いの発信力には驚いた。

この一連の流れの中で本当に痛切に感じたことは、正しい情報をあらゆる段階で層厚く発信し、届けるべき場所に的確に届くように努力し続ける事の大切さである。そのことにより、新たな世界を開拓する事に繋がっていくと思う。

当社の例で言うと、海外の展示会で商品だけでなくその背景も伝える情報発信の結果、ジャッジできるバイヤーの目にとまり商談が成立したこと、次にその情報をマスコミ等に発信し報道された結果、今回の雑誌の取材に繋がり、新たな媒体に掲載され、そのことがきっかけで、大学で情報の発信をさせて頂いた。

最後に最近本当に気になることが有り、考えようによってはかなり深刻な事かと思う。それは、今の学生の大半が自分が何を着ているのか分からない方が多いと言うことで有る。織物か編み物か、何の素材を着ているのか。絹なんてなおさらである。

そこで思っているのは純国産絹を教材として用い、小学生から使ってもらう事である。そこで本物の絹に触れることにより、ポリエステルなどの化学繊維との違いも分かるようになる。絹を身近に感じ扱い方も覚えることにより、将来の賢い消費者を育てることになる。

国産繭も確実な需要を創造することにより、繭価の安定を図ることができ、養蚕農家の減少に歯止め一助になるかも知れない。これもある意味新たな世界の開拓である。

6. 甲斐絹プロジェクト研究活動の評価

(1) 平成25年度研究活動の評価

平成 25 年度の本プロジェクト研究の活動内容は下記のとおりである。産・官・学・金の協力体制について、いずれの研究活動についても、その企画、実施の段階で、㈱甲斐絹座、山梨県産業労働部産業支援課、農政部花き農水産課、山梨県富士工業技術センター、山梨大学、山梨県立大学の研究者、地場産業の経営者がそれぞれの専門を生かし、協同して研究を遂行することができた。山梨県における甲斐絹を題材とした研究授業を実施、また、黒羽ゼミ主催の「甲斐絹プロジェクト学生グループ」「合同会社飯田甲斐絹堂学生グループ」が活発に活動した。

- 1) 研究会を 1 回開催した。
- 2) 「甲斐絹プロジェクト学生グループ」「合同会社飯田甲斐絹堂学生グループ」の活動として、ミニノート、甲斐絹名刺入の製作・販売を継続するとともに、新製品の開発を行った。また、本学文化祭をはじめとするさまざまな場面で「甲斐絹」知名度の向上活動を実践した。
- 3) 学生活動の一環として甲斐絹に関する講演会を企画した（大雪のため中止）。
- 4) 一般社団法人日本繊維製品消費科学会 2013 年次大会において、本研究活動について発表した。
- 5) 活動内容について報告書を作成、発刊した。

(2) 本研究プロジェクトの評価

平成21年度～25年度の産・官・学・金の研究活動を、5年間継続して実施した。その成果として、次の4点が挙げられる。

これらの活動は、本研究の甲斐絹の伝承と発信のための活動そのものであり、地域資源としての甲斐絹を活かしたビジネス展開の可能性についての研究活動が進められたと評価できる。

これらの活動を進める中で、甲斐絹製品の開発に関して実行中であるが、製品開発その販売に関して飯田甲斐絹堂学生グループの今後の活動が期待される。また、本研究活動については随時、報告書で詳細に報告をしているが、活動内容を学会資料または論文として公表するに至っていない。今後の課題としたい。

1) 甲斐絹によるポケットティッシュカバー作成を題材とした授業プログラムの開発

開発した授業プログラムにより山梨県内の中学校、高等学校において研究授業を実施、その内容を逐次、家庭科教育学会において公表した。本、研究授業は山梨日日新聞をは

はじめとする新聞、NHKをはじめとする放送メディアに取り上げられた。本授業プログラムは、山梨県教育センターの研修プログラムにも取り上げられ、甲斐絹をはじめとする、各地域の伝統的織物を伝承する一つの方法として位置づけられる。

2) 「甲斐絹プロジェクト学生グループ」「合同会社飯田甲斐絹堂学生グループ」の活動

合同会社飯田甲斐絹堂により甲斐絹製品、「甲斐絹名刺入（橙、紫）」、および甲斐絹柄メモノートが開発され、本学生協、地域の販売店等で販売され、「甲斐絹名刺入」は本学の卒業記念品として採用され、毎年卒業生に贈られている。また、同グループは、本学園祭をはじめ、地域での様々な活動に参加し、それらは山梨日日新聞にもたびたび取り上げられてきた。これらの活動は、学生による甲斐絹のビジネス展開につながる活動、甲斐絹の発信として位置づけられる。

3) 甲斐絹に関わる講演とアンケート調査

本研究の共同研究者、前田市郎氏による本学、山梨大学、山梨学院大学、都留文科大学、県立城西高校における甲斐絹を題材とした講演において、甲斐絹に関わるアンケート調査を実施した。その成果については、これまでの本研究の報告書にまとめられ、合同会社飯田甲斐絹堂学生グループの商品開発に生かされている。

4) 研究会、講演会の開催

5年間に都合17回、研究会および講演会を開催し、研究者および、学生活動グループの学習の場となった。また、研究会においては、甲斐絹座の活動報告、飯田甲斐絹堂の活動報告がなされ、活発な意見交換が行われた。

謝辞

本プロジェクト研究を進めるに当たり、研究授業をご担当下さいました先生方、甲斐絹製品の見本製作をご担当いただきました皆様、ご講演をいただきました先生方、アンケート調査にご協力くださいました学生の皆様、すべての皆様に感謝の意を表します。

執筆者

1. 研究の概要 斉藤秀子
2. 研究活動報告 波木井昇
3. 研究成果の公表 斉藤秀子
4. 合同会社飯田甲斐絹堂および甲斐絹プロジェクト学生グループ
活動報告 黒羽雅子、金山フォーレスト里行（黒羽ゼミ3年生）
5. 甲斐絹座の活動 前田市郎
6. 甲斐絹プロジェクト研究活動の評価 斉藤秀子

地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について

ー甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発ー

発行 2014年3月

編集 山梨県立大学「地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について」研究グループ

研究代表 斉藤秀子（山梨県立大学人間福祉学部）

連絡先 〒400-0035 山梨県甲府市飯田5丁目11番1号

TEL : 055 - 224 - 5261 FAX : 055 - 228 - 6819

印刷 株式会社 三縁

